



茜雲

大口高校だより



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里 2670
TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

燃ゆる感動 かごしま国体

9月10月13日(金)～16日(月),湧水町轟の瀬特設カヌー競技場を会場に開催された特別国民体育大会に,1年生全員で競技補助員として参加しました。

発艇係,審判係,検定,録画係,式典係等に分かれ,選手たちがベストな環境で競技できるように,4日間頑張りました。参加した生徒は,「通常,カヌー競技を見る機会はないので,いい思い出になりました。」という感想を述べていました。



神埼高校とのスポーツ交流会

国体カヌー競技の補助員として駆けつけた佐賀県立神埼高校の生徒20人が前日に大口高校を訪れ,本校生とスポーツ交流を行いました。「ポッチャ」「ラダーゲッター」「アジャタ」の3種類のニュースポーツに取り組み,最後は飛び入りで参加された塩田知事と一緒に記念撮影をしました。



ソフトボールフェスティバル

10月23日(月),爽やかな秋晴れの下,“燃えよ口高生～2世紀目へplay ball”というスローガンのもと,令和5年度のソフトボールフェスティバルが開催されました。

激しい熱戦の結果,男子は3年生の合同チーム,女子は3年2組が見事優勝しました。3年生は,この勢いで,自分の進路を切り拓いていてもらいたいですね。



「新焼酎祭り」で口高をPR!

10月22日(日),4年ぶりに開催された大口酒造の「新焼酎祭り」で,3年生の川原咲蘭さんと溝口葉菜さんが,総探の授業で伊佐米の米粉で作った“大口高校米(マイ)クッキー”を販売しました。

途中,司会者から呼ばれ,校長先生と一緒にステージへ。クッキーの紹介と,大口高校のPRをしました。



第一薬科大学と「高大連携協定」

10月5日(木),福岡にある都築学園第一薬科大学と「高大連携協定」を結びました。締結式で吉満校長は,都築学園の都築仁子総長と協定書にサインをし,記念品の交換を行いました。

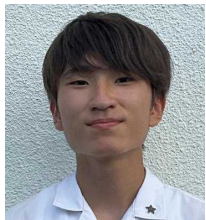
これを受けて,11月には「大学出前講義」や「薬物乱用防止講演会」に専門の先生を派遣していただくことになっています。



てげてげハイスクールin口高

9月28日(木),MBCの岩崎弘志アナウンサーが大口高校に来られ,昼休みの校内放送に参加されました。

MCの丸山瑚雛さん・長畑如珈さんと一緒に大盛り上がり。その様子は,10月1日(日)と8日(日)の2週にわたって,MBCラジオ「てげてげハイスクール」で放送されました。



新生徒会役員 決定

9月14日(木)に実施された生徒会長選挙で,2年1組の中渡旭望さんが生徒会長に選出されました。その他の執行部役員は次のとおりです。副会長:堀ノ内咲良(1年2組),書記:矢嶋空(2年1組),会計:林竜輝(2年1組)・宮脇海羽(1年2組),広報:吉永実央(1年2組)の合計6人です。やる気みなぎるメンバーばかりですので,これからの活動が楽しみです。

「大口高校ふるさと歴史講座」 報告その3



【第6回目】 8月24(木) 18:00~20:00

講師：中村 守男 先生
(伊佐市教育委員会社会教育課文化財係長)

中村先生は大口市の出身で、鹿児島大学農学部にて在学中、考古学研究会に所属し、考古学を専門的に学びました。卒業後、大口市役所に就職し、そのうち17年間は文化財関係の部署に勤務。発掘調査を担当した主な遺跡は、小野原遺跡（旧石器時代）、下殿瀬ノ上遺跡（縄文時代）、新平田遺跡（中世）など。



テーマ：「市内の発掘調査から分かった古代の伊佐」

これまで伊佐市の遺跡の発掘や文化財行政に携わってきた経験を踏まえ、伊佐市内の遺跡について、主なものを紹介します。まず、出水の上場遺跡に近い場所に位置する日東遺跡は、黒曜石の原産地であり、石器の製作遺跡という性格を持った遺跡です。近くの小野原遺跡も密接な関係があると考えられます。下殿瀬ノ上遺跡は、旧南中学校近くの川内川堤防沿いの畑地一帯に広がる遺跡で、縄文時代各期の遺物が発掘されました。土器の種類も豊富で、土器内にどんぐりや栗などの残留物も確認され、炭化物を分析することで土器の年代が判別できます。前畑遺跡は菱刈の重富側右岸に位置する遺跡で、住居跡や土壇墓などが確認されており、住宅地から墓地へと変化していったと推測されます。

こうした地道な発掘調査を積み重ねていくことで、古代の伊佐の様子や我々の祖先がどのような暮らしをしていたかが見えてきます。そのためには、身近な文化財を大切にしていける必要があると思います。

閉講式

第6回目の講座終了後、伊佐市教育委員会の春田教育長と大口高校同窓会の出木場会長御臨席のもと、閉講式を行いました。

春田教育長の挨拶では、市民を対象にした「ふるさと歴史講座」に、市内の小中学校の先生方が何人も参加されていることを大変評価されました。学校で郷土教育を実践していく先生方が、自主的に地域のことを学ぶ姿に感動したと話されました。

その後、吉満校長から、6回すべて参加された方に皆勤賞が授与されました。何と、約半数の方が皆勤賞でした。そして団体で参加された「南九州郷土研究会」「大口城を愛する会」の代表者に対して特別表彰が行われました。出木場会長からは、毎回鹿児島市から参加され皆勤賞をもらった海老原純一さんと現在大口高校に勤務しており毎回資料の準備や受付などを手伝ってくれた内山純子さんに、大口高校同窓生の鏡であると特別表彰状が贈られました。

最後に、吉満校長から学校教育と社会教育は車の両輪なので、大口高校がその役割を果たし、市民の皆様から愛される学校作りに励みたいという挨拶で、幕を閉じました。



受講者の感想

受講者が書いてくださったアンケートの中から、いくつか紹介します。

- ・ 大口城のこと、高熊山のこと、伊佐に生まれて何十年も生きてきたのに、知らないことばかりでした。このような 学びの場を提供していただいた大口高校に感謝です。
- ・ 以前、家の近くで発掘調査をしていました、いつの間にか終わり、それが何だったのか分からないままでしたが、本日の講座でよく分かりました。
- ・ やはり新東晃一先生の「鹿児島の考古学は大口高校から始まった」という講義がインパクトがあった。寺師見國先生から新東先生、中村直子先生と脈々と大口高校の卒業生や縁のある先生方が鹿児島の考古学を牽引されていることを、卒業生として誇りに思います。
- ・ 校長先生から皆勤賞をいただけて嬉しかったです。考えてみれば、学校で賞状をもらうのは40数年ぶりです。
- ・ この講座が単に大口高校のみならず伊佐の地域活性化につながっていくことを期待したいと思います。
- ・ 大学のような高等教育の機会のない地方での今回のような企画は稀有なことで、様々なことをクリアしながら実現できたことに感謝したい。今回のような市民も学べるオープンな学びの場があれば、生徒さん達の関心も高まるだろうし、生涯学習としての高等教育の拠点となるだろう。
- ・ 大口高校が市民を対象としたこのような講座を企画してくださったことに感謝します。卒業生として嬉しいです。
- ・ 私は高校を卒業し、定年まで県外で過ごしました。現在、改めて故郷のことを勉強しています。そうした中、このような講座が開かれることはとてもありがたいことです。毎回、わくわくしながら参加しました。
- ・ 予算がない中、いろいろと工夫してこのような立派な講座を開いていただき、感謝いたします。
- ・ 校庭に移設されている焼山古墳の説明板が朽ち果ててそのままなのが残念です。何かの機会に同窓会ででも設置してあげられないかと思いました。
- ・ 今回は考古学がテーマでしたが、新納忠元が活躍した戦国時代や、明治維新の頃の話も聞いてみたいです。第2弾第3弾を楽しみにしています。現地視察（史跡巡り）などもあったら嬉しいです。
- ・ 校長先生も歴史の専門家で明治維新がとても詳しいと聞きましたので、ぜひ校長先生の講座も聞いてみたいです。

